

キャラクター名	プレイヤー名
灰島 迅(はいじま じん)	

シンドローム	ハヌマーン	ワークス	UGN支部長A	カヴァー	バイク屋さん
	ブラックドッグ				
オプション	パロール	年齢	42	性別	男
覚醒	探求	衝動	殺戮	初期侵食率	35%
出自	捨て子	経験	工作員	邂逅	闇医者

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	36
肉体	3	1	3			7	行動値	6
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	6
精神	2	0	0			2	戦闘移動	11
社会	1	0	0			1	全力移動	22

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	4		射撃			RC			交渉		
回避	2		知覚			意志			調達	1	
運転：二輪	2		芸術：			知識：			情報：UGN	3	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
サイバーアーム	白兵	7r+4	5	4		
サイバ`崩拳	白兵	9r+4	7	6		1+2+3 C値8 装甲無視
サイバ`崩拳(↑100)	白兵	13r+4	7	7		1+2+3 C値7 装甲無視
1/2リカ崩拳(↑100)	白兵	12r+4	11	18		1+2+3+4 C値7 装甲無視 シナリオ2回まで

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
携帯電話	
コネ：UGN幹部	
強化服	
コネ：情報屋	
コネ：要人への貸し	

合計装甲：	0	合計回避：	0
-------	---	-------	---

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タリ	消費
ヘッジホッグ	P 好奇心	N 脅威		
闇医者	P 信頼	N 不快感		
〇市支部の部下達	P 誠意	N 嫉妬		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P:	4	残り財産P:	0
--------	---	--------	---

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
コネ:ブラックドッグ	2	2	×					
効果：	C値-LV							
アームズリンク	2	2	×	武器	-	対決	-	
効果：	D+LV							
漆黒の拳	2	3	×	武器	単体	対決	-	
効果：	攻+LV 装甲無視							
MAXボルテージ	1	4	×	至近	自身	自動	-	
効果：	攻+10 D-1 シナリオLV回 80↑							
サイバーアーム	1	-	常	至近	自身	自動	-	
効果：	素手変更 白兵 命0 攻+[LV+3] ガ5 至近 侵食率によるレベルアップ無し							
軽功	★							
効果：	凄まじく身軽でビル壁面だろろうと水面だろろうと走れるぞすこい							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

【特徴とか性格とか】
 大柄で無精髭、髪は長さは普通くらい。基本的には怖い顔をしているが、別に怒ってるわけじゃない。というか基本的には面倒臭い性格で、部下からの信望もある。焦げ茶色のジャケットを愛用しており、右手の義手にはいつも長いグローブを着けている。無精髭、唾え煙草、帽子でハードボイルド倍点狙います。

【戦闘】
 戦闘スタイルは自己流中国拳法モドキ。機動力はそんなに無いが、腕の周りに高重力を発生させることによって破壊力を体内に叩きこむパンチを叩き込むぞ！ 本人はこれを気功に目覚めたのだと勘違いしているが、パロールのシンドロームに覚醒しただけである。サイバーアームは戦闘時にパワーを溜め、インパクト時に杭打ち機的要領で相手にそのパワーをなんとかかんとか。イメージ的にはシンフォギアの響のガングニールっぽい感じ。サイバーアームは闇医者の基地外カスタムピーキーチェーンなんで一回殴る毎に冷却が必要で、冷却孔から蒸気めいたものがプシューって出る。うん、それがやりたいだけなんだ。すまない。

【なんかテキストめいたもの】
 灰島は暗闇の中、その大きな体をそのりと持ち上げた。視界が暗闇に慣れてくるとともに、昨夜の記憶が徐々に蘇ってくる。…ここはUGN 〇支部の執務室。彼、灰島迅は本施設の支部長である。彼は大きめのソファから体を起こすと、執務机に広げられたスクラップブックを取り取りじっと見つめた。新聞の切り抜きは主に、〇市で最近蔓延し始めた奇病に関するものばかりが纏められている。(この件、オーヴァードに関わっている可能性が高いだろう。我々が動員され、犯人を捕縛、あるいは殺害をする任が降りる日も近いだろう。だが・・・) 思考にふけりながら執務室の扉を開いた灰島は、しんと静まり返った仕事場を見回し、一本取り出した煙草を口に咥えた。「今回はまた、厄介な案件になりそうだな」彼の右手に装着された、くすんだサイバーアームを元元に近づけると、小さな稲妻が迸りタバコに火を点けた。